



TITLE:

圖版 烏丹城附近の二大元碑

AUTHOR(S):

CITATION:

圖版 烏丹城附近の二大元碑. 東洋史研究 1935, 1(1)

ISSUE DATE:

1935-10-20

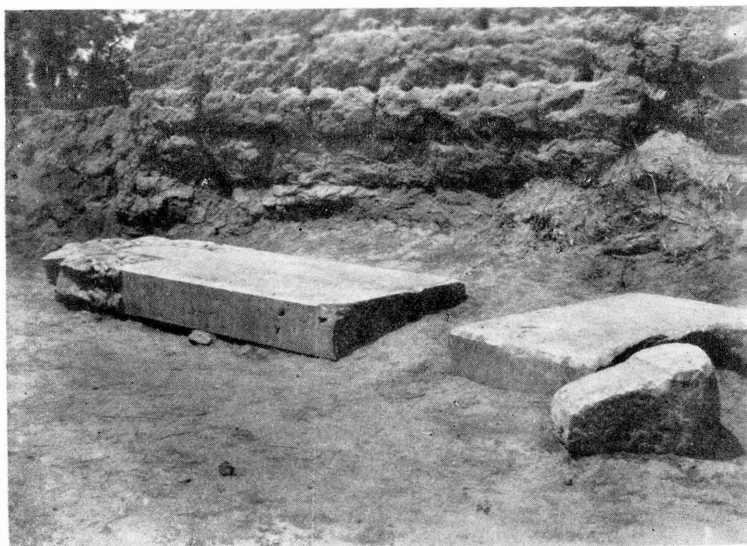
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/138671>

RIGHT:

圖版 第一

烏丹城附近の二大元碑
(解説裏面)



熱河烏丹城附近の二大元碑

上圖は、烏丹城（滿洲國熱河省赤峰縣）南南東約十一哩、國公坟に現存する有名な皇元勅賜故贈榮祿大夫遼陽等處行中書省平章政事柱國追封薊國公張氏先塋之碑にして、碑石の高さ一丈九尺七寸、幅四尺四寸、碑面には漢文を刻し、碑陰には螭首額題に八思巴文字（元朝國字）を、碑文に回鶻系蒙古文字を以て（蒙古語を）刻されてゐる。

下圖は、同じく烏丹城南に見出されたる、大元勅賜故中順大夫諸色人匠都總管府達魯花赤竹君之碑——俗に烏蘭坂碑——にして、高さ約一丈三尺二寸、幅三尺八寸、碑面は漢文字、碑陰は題名、碑文共に回鶻系蒙古文字を以て刻出されてゐる。寫眞に示す如く、碑石は三個に裂け、民國三年出土以來、半ば土中に埋没して居たものにして、我國に於ける原碑石の紹介は、恐らく之が最初であらう。（二碑共、今夏、ミツシヨン羽田の一行によつて苦心の末、拓本せられた。）